

日興ワールド CBファンド (通貨アルファ戦略コース)

【運用報告書(全体版)】

(2018年5月15日から2019年5月13日まで)

第 8 期

決算日 2019年5月13日

受益者の皆さまへ

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として、新興国を含む世界の企業が発行するCB(転換社債)等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2011年5月31日から2021年5月12日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として、新興国を含む世界の企業が発行するCB(転換社債)等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス 新興国を含む世界のCB等 マネー・マーケット・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■新興国を含む世界各国のCB(転換社債)などを実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指します。 ■外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。その上で、金利の高い通貨を買い建てるとともに、投資通貨の分散、買建てと売建てとの組み合わせ等、積極的に為替差益の獲得を図るアクティブ運用を行います。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年1回(原則として毎年5月12日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。



三井住友DSアセットマネジメント

(旧:三井住友アセットマネジメント)

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1

<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

フリーダイヤル 0120-88-2976

受付時間:午前9時~午後5時(土、日、祝・休日を除く)

■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			債券組入率	投資信託証券組入率	純資産額
	(分配落)	税込分配金	期中騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
4期(2015年5月12日)	10,120	0	1.8	1.7	96.1	4,068
5期(2016年5月12日)	9,155	0	△9.5	2.6	95.3	2,570
6期(2017年5月12日)	8,951	0	△2.2	2.4	94.4	1,957
7期(2018年5月14日)	8,651	0	△3.4	3.5	85.1	1,523
8期(2019年5月13日)	7,378	0	△14.7	0.6	96.4	1,088

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		債券組入率	投資信託証券組入率
		騰落率		
(期首)	円	%	%	%
2018年5月14日	8,651	—	3.5	85.1
5月末	8,549	△1.2	3.6	93.7
6月末	8,273	△4.4	3.8	93.2
7月末	8,574	△0.9	3.7	94.4
8月末	7,959	△8.0	4.1	93.8
9月末	8,362	△3.3	0.5	97.3
10月末	8,035	△7.1	0.5	98.0
11月末	7,978	△7.8	0.5	97.4
12月末	7,612	△12.0	0.5	98.0
2019年1月末	7,926	△8.4	0.5	94.4
2月末	7,862	△9.1	0.4	97.0
3月末	7,822	△9.6	0.5	97.4
4月末	7,776	△10.1	0.5	96.5
(期末)				
2019年5月13日	7,378	△14.7	0.6	96.4

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について（2018年5月15日から2019年5月13日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	8,651円
期末	7,378円 (分配金0円(税引前)込み)
騰落率	-14.7% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

基準価額の主な変動要因（2018年5月15日から2019年5月13日まで）

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国のCB（転換社債）に投資しました。外貨建資産については、対円ででの為替ヘッジを行うと共に、通貨アルファ戦略を行いました。

下落要因

- 期初から12月にかけて、主要株式市場の下落を受けて、CB価格が下落したこと
- 個別ではARM（オーストリア）などの価格が大きく下落したこと
- 通貨アルファ戦略が大きくマイナスに寄与したこと

組入れファンドの状況

組入れファンド	投資資産	期末組入比率
ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス	世界各国のCB	96.4%
マネー・マーケット・マザーファンド	短期金融資産	0.8%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

投資環境について（2018年5月15日から2019年5月13日まで）

CB市場は下落しました。また、ユーロに対して、スウェーデンやノルウェーの北欧通貨が下落しました。

CB市場

当期は、米中貿易問題への警戒感の強さと価格変動が比較的大きかったことが特徴でした。

期初から12月までを通してみれば、10月以降の主要株式市場の下落を受けて、CB市場が下落しました。米中貿易問題の深刻化など、世界経済に対する警戒感が強まったことが嫌気されました。米国が2018年の春から、中国からの輸入製品に対する制裁関税の対象や税率などを段階的に拡大する一方で、中国も米国からの輸入品に対する制裁関税の報復措置を発表したことから、欧州やアジアを含む世界経済全体への広い悪影響が懸念されました。

2019年1月にかけては、欧米の中央銀行が金融引締め姿勢を見直し、2019年末まで緩和的な金融政策を維持すると表明したことから、市場のセンチメントが大きく改善しました。

1月から期末にかけては、主要株式市場の反発を受けて、CB市場も上昇に転じました。12月に米中首脳が貿易交渉の継続で合意したことや、米トランプ大統領が中国に対する制裁関税の追加的な引上げを90日間猶予す

ると発表したことで、交渉合意への期待が高まりました。

CB発行市場は2018暦年で約750億ドルの新規発行があり、近年では比較的高水準でした。特に米国市場での発行が高水準でしたが、その後は徐々に平年並みへ戻っています。

当期の市場の動きをトムソン・ロイター・グローバル・フォーカス・ヘッジド・CB・インデックス(米ドルベース)で見ると、0.3%の下落となりました。

為替市場

期を通してみると、円は対米ドルで若干の円安、対ユーロでは大きく円高となりました。ユーロ・米ドル相場は、米ドル高・ユーロ安となりました。

米ドルは、期初から12月中旬にかけて、大型減税などによる米景気の堅調な拡大や、米中貿易問題における米国側の悪影響は限定的との見方などから、円に対してじり高の展開となりました。12月下旬から2019年1月上旬にかけては、米経済指標の悪化やFRB(米連邦準備制度理事会)の利上げ継続への懸念、それらを嫌気した米株式の急落などを受

けて、米ドルが円に対して急落しました。その後、1月中旬から4月にかけては、FRBの年内利上げ見送り姿勢などを受けてリスク回避姿勢が後退し、米ドルが対円で持ち直しました。しかし、5月に入り、米トランプ大統領が、中国に対する制裁関税の大幅な引上げを突然発表したことから、期末にかけて再び米ドル安・円高が進みました。

ユーロは、期を通して対円や対米ドルで下値を切り下げる展開が続きました。ECB（欧州中央銀行）もFRBと同様に2019年年内の利上げ見通しを先送りしたことや、英国のEU（欧州連合）離脱問題の迷走と混乱、フランスでの継続的な政府への抗議デモ、ドイツの経済指標が製造業を中心に悪化したことなどの悪材料が続いたことが嫌気されました。

また、通貨アルファ戦略で大きくポジションを取っているスウェーデンクローナやノルウェークローネは、期を通してともにユーロに対して下落しました。両国とも期中で利上

げは実施されたものの、インフレ率が中央銀行の目標をともに下回る状態が続いており、当初の利上げ見通しが何度か先送りされています。また、ノルウェークローネは、昨年10月から12月にかけての原油価格の急落にも悪影響を受けました。

米ドルは対円で、期首の109円31銭から期末は109円74銭と0円43銭の米ドル高・円安となりました。ユーロは対円で、期首の130円71銭から期末は123円25銭と、7円46銭のユーロ安・円高となりました。また、スウェーデンクローナは対ユーロで、期首の10.3081スウェーデンクローナから期末は10.8182スウェーデンクローナとユーロ高・スウェーデンクローナ安となりました。ノルウェークローネも対ユーロで、期首の9.5809ノルウェークローネから期末は9.8383ノルウェークローネと、ユーロ高・ノルウェークローネ安となりました。

ポートフォリオについて（2018年5月15日から2019年5月13日まで）

当ファンド

「ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス」および「マネー・マーケット・マザーファンド」を主要投資対象とし、「ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス」の高位組入れを維持しました。

ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス

●CB

基本的に価格下落リスクを抑制した慎重な運用を行いました。株式市場の上昇により目標価格に達し、株式感応度が上昇した銘柄を売却し、市場全体との対比ではやや低位の株式感応度を維持しました。

株式的価値と債券的価値のバランスの取れた転換社債を選好する観点から、新規発行銘柄も積極的に組み入れました。

●業種配分

市場全体の動きとの比較では、情報技術の中のソフトウェア関連業種の保有が少なかったことが、相対的なアンダーパフォームの一因となりました。

●個別銘柄

AMS（オーストリア：デジタル家電向けの半導体など）の保有や、ウェイフェア（米国：オンライン家具販売）の非保有などが、市場全体の動きとの比較ではマイナス要因となりました。一方で、ライブ・ネーション（米国：イベント・プロモーション）やサービスナウ（米国：企業向けクラウドサービス）の保有などが、市場全体の動きとの比較ではプラス要因となりました。

●為替ヘッジ

現物資産の外貨建て部分については、運用

の基本方針に基づき、対円での為替ヘッジを行いました。

●通貨アルファ戦略

為替差益の獲得などを狙う当戦略については、期を通じて、主にユーロの売建てポジションに対する、スウェーデンクローナやノルウェークローネの買建てポジションを維持しました。北欧2か国の中長期のファンダメンタルズ（基礎的条件）が相対的に優位とみたためです。しかし、北欧2か国の景気回復や利上げが欧州地域に先行するとの当初見通しに対して、両国ともに予想を下回るインフレの鈍化傾向が続いたことや、原油価格の急落によるノルウェークローネへの悪影響などが響き、当期の通貨アルファ戦略は大きくマイナス寄与となりました。

マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、流動性の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について（2018年5月15日から2019年5月13日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について（2018年5月15日から2019年5月13日まで）

（単位：円、1万口当たり、税引前）

項目	第8期
当期分配金	—
（対基準価額比率）	（—％）
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	156

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」（税引前）の期末基準価額（分配金（税引前）込み）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

当期の分配は、基準価額水準等を勘案し、見送りとしたしました。

なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

当ファンド

「ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス」および「マネー・マーケット・マザーファンド」を主要投資対象とし、安定的な収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行う方針です。

ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス

●CB

CB価格に大きな影響を与える株式市場に関しては、概ね上昇局面の終盤の位置にあるものの、世界経済の成長が続く中で、引き続き堅調な動きを示すものとみています。

2019年の企業業績は、引き続き増益が見込まれています。また、2018年にバリュエーション（価格評価）が低下したことで、割安感があるとみています。一方で、英国のEU離脱問題やフランスの反政府デモなどの政治リスク、米中貿易摩擦、地政学リスクなどが先行きの不透明要因です。しかし、CB市場は株式市場の影響を受けつつも、株式市場との比較ではリスクをより抑制した形で運用できる資産といえます。ファンダメンタルズ（基礎的条件）が良好で値上がり期待できる銘柄、あるいは、利回り面で魅力のある世界のCBに投資を行う方針です。今後、魅力的な投資対象として考えている業種やテーマは以下の通りです。

- ・ヘルスケア、新たな医薬品や医療技術、それを支える医療機器など

- ・エンターテインメントやオンライン・サービス
- ・サイバーセキュリティー（オンライン上の安全性）、個人情報の利用や管理、企業向けソフトウェア、フィンテック（金融サービスと情報技術の融合による新たなサービス）
- ・アジアや中国の大気汚染問題、人々の健康向上に資する高機能の化学や素材メーカー
- ・中国の景気対策で恩恵を受けると考えられる産業

●為替ヘッジ

現物資産の外貨建て部分については、運用の基本方針に基づき、対円での為替ヘッジを行います。

●通貨アルファ戦略

為替差益の獲得などを狙う当戦略については、引き続き、主にユーロの売建てポジションに対する、スウェーデンクローナやノルウェークローネの買建てポジションを維持する予定です。北欧2か国の中長期のファンダメンタルズが相対的に欧州よりも優位とみていることや、英国のEU離脱問題、仏の政治リスク、独の製造業の減速傾向など、引き続き欧州地域の相対的な不透明感が強いと判断しているためです。

マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、流動性の確保を目指します。

3 お知らせ

合併について

三井住友アセットマネジメント株式会社は、2019年4月1日に大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三井住友DSアセットマネジメント株式会社に変更しました。

約款変更について

委託会社の合併に伴う商号変更および電子公告アドレスの変更に対応するため、信託約款に所要の変更を行いました。
(適用日：2019年4月1日)

投資対象ファンドの運用会社の変更について

当ファンドの投資対象である「ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス」の運用会社が下記の通り変更されました。

なお、当該変更は、エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グループ内の体制見直しに伴い実施するものであり、当該変更による実質的な運用体制の変更はなく、運用の基本方針にも影響はありません。

(変更日：2018年8月10日)

	変更前	変更後
副投資顧問会社	<u>エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・アセット・マネジメント(ルクセンブルグ)</u>	<u>エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・アセット・マネジメント(フランス)</u>

■ 1万口当たりの費用明細（2018年5月15日から2019年5月13日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	94円	1.163%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（経過日数／年日数）
（投信会社）	(23)	(0.291)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(68)	(0.840)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(3)	(0.032)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	1	0.009	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	(1)	(0.008)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
（その他）	(0)	(0.001)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	95	1.172	

期中の平均基準価額は8,060円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の費用は後掲の「包括利益計算書」をご覧ください。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2018年5月15日から2019年5月13日まで）

(1) 投資信託証券

		買付		売付	
		口数	買付額	口数	売付額
国内	ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス	214,811,249	198,000	293,009,933	258,000
	合計	214,811,249	198,000	293,009,933	258,000

※金額は受渡し代金。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 —	千円 —	千口 61,504	千円 61,640

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 利害関係人との取引状況等（2018年5月15日から2019年5月13日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 （2018年5月15日から2019年5月13日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細（2019年5月13日現在）

（1）ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)	期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	組 入 比 率
ワールド・CB・ファンド カレンシー・ アルファ・ストラテジー・クラス	口 1,375,259,348	口 1,297,060,664	千円 1,049,192	% 96.4
合 計	1,375,259,348	1,297,060,664	1,049,192	96.4

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

（2）親投資信託残高

種 類	期首(前期末)	期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 70,000	千口 8,495	千円 8,510

※マネー・マーケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は89,650千口です。

※単位未満は切捨て。

■ 投資信託財産の構成

（2019年5月13日現在）

項 目	期	末
	評 価 額	比 率
投 資 信 託 受 益 証 券	千円 1,049,192	% 95.8
マネー・マーケット・マザーファンド	8,510	0.8
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	37,743	3.4
投 資 信 託 財 産 総 額	1,095,445	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

（2019年5月13日現在）

項 目	期 末
(A) 資 産	1,095,445,007円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	37,742,035
投資信託受益証券(評価額)	1,049,192,371
マネー・マーケット・マザーファンド(評価額)	8,510,601
(B) 負 債	6,899,469
未 払 信 託 報 酬	6,853,562
未 払 利 息	90
そ の 他 未 払 費 用	45,817
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	1,088,545,538
元 本	1,475,418,786
次 期 繰 越 損 益 金	△ 386,873,248
(D) 受 益 権 総 口 数	1,475,418,786口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C/D)	7,378円

※当期における期首元本額1,761,472,430円、期中追加設定元本額2,479,577円、期中一部解約元本額288,533,221円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

（自2018年5月15日 至2019年5月13日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 14,843円
支 払 利 息	△ 14,843
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△172,983,265
売 買 益	11,198,434
売 買 損	△184,181,699
(C) 信 託 報 酬 等	△ 15,187,750
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△188,185,858
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△195,680,938
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 3,006,452
(配 当 等 相 当 額)	(50,122)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 3,056,574)
(G) 計 (D+E+F)	△386,873,248
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	△386,873,248
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 3,006,452
(配 当 等 相 当 額)	(50,124)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 3,056,576)
分 配 準 備 積 立 金	23,046,170
繰 越 損 益 金	△406,912,966

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※期末における、費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(50,124円)および分配準備積立金(23,046,170円)より分配可能額は23,096,294円(1万口当たり156円)ですが、分配は行っておりません。

■ 分配金のお知らせ

	当 期
1 万 口 当 た り 分 配 金 (税 引 前)	－円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

■ 組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス
形態	ケイマン籍外国投資信託（円建て）
主要投資対象	新興国を含む世界のCB等。また、主として新興国の通貨を対象とした通貨戦略の投資成果を享受するためトータル・リターン・スワップ取引またはフォワード取引を利用します。
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国を含む世界のCB等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。 ・対円での為替ヘッジを行います。その上で、主として新興国の通貨を対象とした積極的な運用を行い、相対的に高い金利収入とキャピタルゲインの獲得を目指します。
ベンチマーク	ありません。
分配方針	毎年4月25日（休業日の場合は前営業日）に分配を行う方針。
運用報酬等	純資産総額に対して年0.82%
管理およびその他の費用	<p>ファンドの設立、取引関連費用、法的費用、会計・監査、税務上の費用および受託者報酬ならびにその他の費用を負担します。</p> <p>その他の費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	一部解約時に0.3%
投資顧問会社	シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
副投資顧問会社	<ul style="list-style-type: none"> ・エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・アセット・マネジメント（フランス） ・日興グローバルラップ株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ワールド・CB・ファンド カレンシー・アルファ・ストラテジー・クラス」をシェアクラスとして含む「ワールド・CB・ファンド」の情報を、委託会社において抜粋・要約して翻訳したものを記載しています。

■ 包括利益計算書(2017年11月1日から2018年10月31日まで)

	(千円)
受取利息	15,513
損益を通じて公正価値評価される金融商品にかかる純損失	(207,980)
純為替差損	(3,120)
収益合計	<u>(195,587)</u>
管理報酬	(14,680)
事務代行、名義書換代理人および保管報酬	(2,165)
監査報酬	(3,635)
受託報酬	(1,237)
支払利息	(248)
銀行手数料	(124)
財務諸表作成費用	(772)
弁護士費用	(336)
諸費用	(62)
営業費用合計	<u>(23,259)</u>
税引前営業損失	(218,846)
源泉徴収税	(194)
営業による受益証券保有者に帰属する純資産の変動額および当期包括利益合計	<u>(219,040)</u>

■組入上位30銘柄

ワールド・CB・ファンド

銘柄	通貨	クーポン	償還日	組入比率
YANDEX NV YNDX 1 1/8 12/15/18	USD	1.125%	2018/12/15	3.48%
SONY CORP SNE 0 09/30/22	JPY	0.000%	2022/9/30	3.41%
NUANCE COMMUNIC NUAN 1 12/15/35	USD	1.000%	2035/12/15	2.99%
PRYSMIAN SPA 0% 17JAN2022	EUR	0.000%	2022/1/17	2.87%
CHINA OVRS FIN 5 CHCONS 0 01/05/23	USD	0.000%	2023/1/5	2.83%
LG CHEM LTD LGCHM 0 04/16/21	USD	0.000%	2021/4/16	2.68%
DP WORLD LTD DPWDU 1 3/4 06/19/24	USD	1.750%	2024/6/19	2.60%
HON HAI PRECISION INDUST 0% 06NOV2022	USD	0.000%	2022/11/6	2.51%
CTRP.COM INTL LTD 1% 01JUL2020	USD	1.000%	2020/7/1	2.46%
GLENCORE FUNDING LLC 0% 27MAR2025	USD	0.000%	2025/3/27	2.37%
BENI STABILI BNSIM 0 7/8 01/31/21	EUR	0.875%	2021/1/31	2.33%
WEIBO CORP WB 1 1/4 11/15/22	USD	1.250%	2022/11/15	2.32%
MICROCHIP TECH MCHP 1 5/8 02/15/27	USD	1.625%	2027/2/15	2.14%
JP MORGAN CHASE BANK NA 0% 30DEC2020	USD	0.000%	2020/12/30	2.08%
PALO ALTO NET PANW 0 3/4 07/01/23	USD	0.750%	2023/7/1	2.07%
AYC FINANCE LTD AYCFIN 0 1/2 05/02/19	USD	0.500%	2019/5/2	2.00%
BAGAN CAPITAL KNBZMK 0 09/23/21	USD	0.000%	2021/9/23	1.92%
NABORS INDS INC NBR 0 3/4 01/15/24	USD	0.750%	2024/1/15	1.77%
BIOMARIN PHARM BMRN 1 1/2 10/15/20	USD	1.500%	2020/10/15	1.73%
SAFRAN SA SAFFP 0 06/21/23	EUR	0.000%	2023/6/21	1.67%
HARVEST INTERNATIONAL CO 0% 21NOV2022	HKD	0.000%	2022/11/21	1.61%
BAYER AG BAYNGR 0.05 06/15/20	EUR	0.050%	2020/6/15	1.57%
SACYR SA VLHM 4 05/08/19	EUR	4.000%	2019/5/8	1.51%
JAZZ INVT I LTD JAZZ 1 7/8 08/15/21	USD	1.875%	2021/8/15	1.48%
INDRA SISTEMAS S IDRSM 1 1/4 10/07/23	EUR	1.250%	2023/10/7	1.47%
QIAGEN NV QGEN 0 1/2 09/13/23	USD	0.500%	2023/9/13	1.45%
YANGTZE PWR INTL YANGTZ 0 11/09/21	USD	0.000%	2021/11/9	1.41%
LIVE NATION ENT LYV 2 1/2 03/15/23	USD	2.500%	2023/3/15	1.40%
CEMEX SAB CEMEX 3.72 03/15/20	USD	3.720%	2020/3/15	1.40%
ABIGROVE LTD 0% 16FEB2022	USD	0.000%	2022/2/16	1.38%

※シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドからデータの提供を受けて作成しています。

※データは現地2018年10月31日現在のものです。

マネー・マーケット・マザーファンド

第8期 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

信託期間	無期限 (設定日: 2011年5月31日)
運用方針	主として、円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

■最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債券組入比率	純資産総額
	円	期中騰落率		
4期 (2015年3月2日)	10,035	0.1	98.5	97
5期 (2016年3月1日)	10,039	0.0	84.3	93
6期 (2017年3月1日)	10,033	△0.1	66.0	137
7期 (2018年3月1日)	10,025	△0.1	76.9	90
8期 (2019年3月1日)	10,019	△0.1	74.1	89

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

■当期中の基準価額と市況等の推移

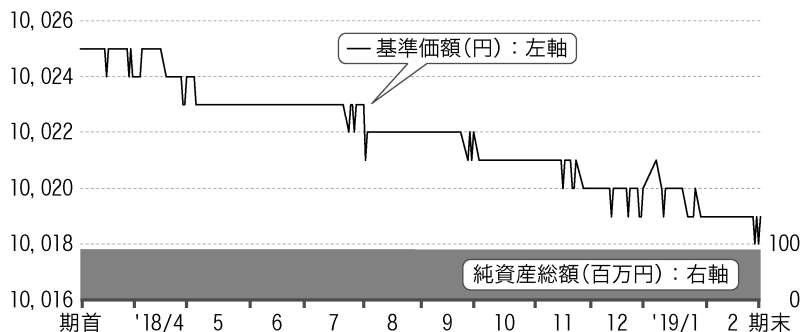
年月日	基準価額		債券組入率
	円	騰落率	
(期首) 2018年3月1日	10,025	—	76.9
3月末	10,024	△0.0	76.8
4月末	10,024	△0.0	77.1
5月末	10,023	△0.0	76.9
6月末	10,023	△0.0	76.9
7月末	10,023	△0.0	77.0
8月末	10,022	△0.0	77.5
9月末	10,022	△0.0	77.4
10月末	10,021	△0.0	77.3
11月末	10,020	△0.0	74.1
12月末	10,020	△0.0	74.0
2019年1月末	10,019	△0.1	73.9
2月末	10,018	△0.1	54.9
(期末) 2019年3月1日	10,019	△0.1	74.1

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

基準価額等の推移



期首	10,025円
期末	10,019円
騰落率	-0.1%

▶ 基準価額の主な変動要因 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

下落要因

・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

▶ 投資環境について (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

当期の短期金利は小幅上昇しましたが、マイナス圏での推移は継続しました。

物価上昇率が目標とする2%まで乖離がある状態が続いたことから、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を維持し、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

日銀は需給動向を勘案しながら短期国債の買入れを調整したことから、国庫短期証券3ヵ月物利回りはマイナス圏でのレンジ推移となりました。国庫短期証券3ヵ月物利回りは期首-0.200%に対し、期末には-0.180%へ小幅上昇しました。

▶ ポートフォリオについて (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しから、残存0年から1年3ヵ月の円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを継続しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

▶ ベンチマークとの差異について (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

2 今後の運用方針

日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期国債利回りやコールローン翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは引き続きマイナス圏で推移しています。

残存0年から1年3ヵ月の公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	1円 (1)	0.013% (0.013)	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数 その他 : 信託事務の処理等に要するその他費用
合計	1	0.013	

期中の平均基準価額は10,021円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

公社債

		買付額	売付額
国内	特殊債券	千円 66,995	千円 - (69,000)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※()内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2018年3月2日から2019年3月1日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2019年3月1日現在)

公社債

A 債券種類別開示／国内(邦貨建)公社債

区 分	期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	66,000 (66,000)	66,582 (66,582)	74.1 (74.1)	— (—)	— (—)	— (—)	74.1 (74.1)
合 計	66,000 (66,000)	66,582 (66,582)	74.1 (74.1)	— (—)	— (—)	— (—)	74.1 (74.1)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※一印は組入れなし。

B 個別銘柄開示／国内(邦貨建)公社債

種 類	銘 柄	期		末	
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
		%	千円	千円	
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	第5回 政府保証阪神高速道路債券	1.3	17,000	17,238	2020/3/18
	第8回 政府保証地方公営企業等金融機構債券	1.5	16,000	16,056	2019/5/24
	第95回 政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.2	17,000	17,173	2019/12/27
	第3回 政府保証地方公共団体金融機構債券	1.5	16,000	16,113	2019/8/16
合 計	計	—	66,000	66,582	—

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 投資信託財産の構成

(2019年3月1日現在)

項 目	期		末	
	評 価 額	比 率	評 価 額	比 率
	千円	%		
公 社 債	66,582	62.2		
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	40,473	37.8		
投 資 信 託 財 産 総 額	107,055	100.0		

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2019年3月1日現在)

項目	期末
(A) 資産	107,055,375円
コール・ローン等	40,251,327
公社債(評価額)	66,582,000
未収利息	222,048
(B) 負債	17,239,090
未払金	17,238,850
未払利息	33
その他未払費用	207
(C) 純資産総額(A-B)	89,816,285
元本	89,650,363
次期繰越損益金	165,922
(D) 受益権総口数	89,650,363口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,019円

※当期における期首元本額90,260,179円、期中追加設定元本額76,811,023円、期中一部解約元本額77,420,839円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

日興ワールドCBファンド(通貨アルファ戦略コース)	8,495,310円
日興ワールドCBファンド(円ヘッジありコース)	2,445,519円
日興ワールドCBファンド(円ヘッジなしコース)	1,548,154円
インド内需関連株式ファンド	119,759円
高成長インド・中型株式ファンド	17,711,132円
アジア好利回りリート・ファンド	99,971円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型)	7,742,960円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/年1回決算型)	1,337,053円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/3か月決算型)	4,909,194円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/3か月決算型)	1,456,790円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし)	14,208,735円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(限定為替ヘッジ)	1,237,272円
三井住友・ニュー・アジア・ファンド	369,177円
アジア好利回りリート・ファンド(年1回決算型)	997円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし/年2回決算型)	1,187,376円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(限定為替ヘッジ/年2回決算型)	389,132円
日興フィデリティ世界企業債券ファンド(為替ヘッジあり)	209,527円
日興フィデリティ世界企業債券ファンド(為替ヘッジなし)	179,593円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド(為替ヘッジあり)	289,352円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド(為替ヘッジなし)	419,066円
アジア高利回り現地通貨建て債券ファンド(毎月分配型)	9,963円
アジア高利回り現地通貨建て債券ファンド(資産成長型)	9,963円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジあり)	4,140,881円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジなし)	11,065,647円
グローイング・フロンティア株式ファンド	2,185,185円
高成長インド・中型株式ファンド(年1回決算型)	7,882,655円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2018年3月2日 至2019年3月1日)

項目	当期
(A) 配当等収益	974,849円
受取利息	985,681
支払利息	△ 10,832
(B) 有価証券売買損益	△ 1,021,170
売却損	△ 1,021,170
(C) 信託報酬等	△ 12,121
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 58,442
(E) 前期繰越損益金	225,710
(F) 追加信託差損益金	168,977
(G) 解約差損益金	△ 170,323
(H) 計(D+E+F+G)	165,922
次期繰越損益金(H)	165,922

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、保管費用等を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。